

◆ 司会の木下キャスター、萩原准教授と講演者・会場参加者によるディスカッション

(木下) では、最後に北海道大学の萩原先生とともに、そうした吹雪災害から自分自身をどうやって守るのかを、会場の皆さんと一緒に考えて行きたいと思います。

例えば、私は運転免許は持っているのですが、冬道の運転はそれほどたくさんの経験があるわけではありません。そんな私が、年末に地方の実家に車で帰省するとなった場合には、吹雪に対して何かしらの心構えと準備が必要だと思うのです。そうしたことをイメージしながら、今日来ていただいた方々に具体的な質問をお聞きして、進めて行きたいと思います。私だけでなく、会場の皆さんも専門家の方々に聞いておきたいことがあれば、質問していただきたいと思います。

そうした冬の長距離ドライブに向けて、松澤さん、普段からの準備はどうしたらよいでしょうか？

(松澤) 今日お渡しした吹雪ドライブのコツというパンフレットの1番最後の裏に冬道運転の必需品ということでいくつか書かれています。例えばスコップとかスノーヘルプ、牽引ロープこういったものが必要ですし、あと、軽装で車に乗る方が多いので防寒服なども用意しておくとうまいと思います。

(萩原) 会場の皆さんに伺いたいのですが、車の中にスコップを載せていらっしゃる方はいますか？

けっこういますね。こんなにいらっしゃる私は私想像していませんでした。私は残念ながらスコップは載せていませんが。意外とみなさん準備がよろしいんですね。ありがとうございます。

(木下) では、出発するときに天気予報を見ると、かなり吹雪そうだとやっている場合には、これに加えてどんな準備をしたらいいのでしょうか。

(松澤) まず安全な旅行計画を立てることが必要で、道路情報を収集しましょう。寒地土木研究所が運営する北の道ナビでは、道路情報や気象情報をリンクさせて試験的に提供しています。

例えば、ここをクリックすると北海道の道路情報があるのですが、これは北海道開発局が提供している道路情報のサイトで、道路情報や通行止め情報などがまめに記録されています。こうした道路情報を収集することが必要だと思います。また、旅行計画を立てる上で、特に夜間走行を考えている場合は、夜間除雪を行う路線があります。どういうルートを通るといいうかということも含めて準備、情報収集というのが必要だと思います。

このほか、出発前の準備として、行き先を身近な人に知らせること、吹雪が予想される場



合は燃料を満タンにしておく、あと水や非常食を用意しておくことが必要だと思います。

(木下) こうした天気予報で、すでに暴風雪警報が気象台から発表されているときには、気象予報士としてどういったことに注意すればいいとか、賀久さん、コメントないですか？

(賀久) まず警報の内容で、着目するのは低気圧の通過で現在荒れるのか、もしくは強い冬型の気圧配置で荒れるのかということです。強い冬型で荒れるのは、先々その次から2日くらいと見ていいと思いますが、低気圧通過型ですと低気圧が通過中に荒れて、また通過後も北よりとか西よりの吹き返しによる風雪が強くなって荒れると、日本海側では荒れた天気が長い間続くというのが特徴です。ただし太平洋側、東部の地方へ移動するという方は半日で低気圧が通過したあと天気は回復というという見方も大事かと思います。



(木下) ここで、会場の皆さんから、出発前の段階で専門家のお二人に聞いておきたいことはないでしょうか？

続いて、車で出発してからの話になりますが、天気予報では吹雪といているのに、実際には晴れていたりすることがあります。また、気象の警報が発表されているのに、実際には何でもないような天気だったりすることがあります。そうした場合に、どういった点に注意すればいいのでしょうか？

(松澤) 今のご質問で、実際天気予報では降るといっている、恐らく潜在的には吹雪いている、吹雪が発生する可能性は高いという条件だと思います。降雪が無いときはかなり風が強くても吹雪が発生しないということもあります。例えば、たまたまそのときに風が強くて降雪が始まると、急激に吹雪くこともあります。ですから、風が強いとかそういうところに注意して欲しいと思います。

あともうひとつは移動してからの情報収集をこころがけることが必要です。道の駅やラジオでは道路気象情報を提供しているので、道の駅やサービスエリアで休憩しながら、道の駅の情報端末で得られる気象情報や、通行止め情報を収集する必要があります。携帯電話でも道路情報が提供されていますから、今ここでは吹雪いていないけれども、その近くでは吹雪かもしれないと考えながら、周囲の状況も含めてチェックしていくことが必要だと思います。

(賀久) 吹雪の予報でも青空が出ているから外れたと苦情が来ることがよくあるのですが、吹雪というのは雲で移動します。雪を降らせる雲の動きというのは10キロから20キロくらいの狭い範囲で、日本海からやっていくわけですね、頭の上で晴れていても雲は動いてきますので、次の20キロくらい先では猛吹雪にあってしまう、やはり天気予報で吹雪といているときには、吹雪に遭遇する可能性が高いということを念頭におくことが大事だと思います。

それから、個人の情報不足というのが問題です。携帯電話を持っているのであれば、レーダーで雪雲の様子が見られるサイトがありますので、それをぜひ登録していただいて、雪雲を個人的にすばやく見つけるということも大事だと思います。

(木下) 実際に、吹雪の中で車を運転することとなってしまった場合の注意点は何かありますか？

(澤田) 実際救助に行ったら、夏と同じ格好の人がいました。ぜひトランクが空いていると思いますので、防寒着とか毛布とか、吹雪ばかりではなくて、最近交通事故とかトレーラーが横転

してしばらく動けないともありますので、準備されておいたほうが良いと思います。

(松澤) 吹雪の中で運転するのであれば基本的にはスピードダウンして、ライトを点灯するということが必要です。それから、車間距離をとることも運転の基本だと思いますね。あとラジオなどで道路気象情報収集するということ。先程もお話しましたが、運転しているときに後続車に巻き上げる雪煙もあるので、そういったところにも注意すること必要だと思います。いずれにしても、スピードダウンして安全に慎重に運転するということが必要です。

(木下) そうやって吹雪の中を運転していて、もっと吹雪がひどくなって前が全く見えなくなったりしたらどうしたらいいのでしょうか。私のように運転に自身がないと、なんとか車を停めて吹雪をやり過ぎたいと思うのですが。松澤さん、いかがですか。

(松澤) 長沼の場合もそうですが、全然前が見えない状況でも、他の車は走っているかもしれないという状況なので、吹雪いて前が見えないからといって車道上で停まるのは危険です。

かなり視程が悪くなってきて車を停めるとなると後ろの車から追突されてしまう可能性も高くなりますので、できるだけ徐行しながら走ってもらうのが良いのですが、なかなかそうはかない場合があると思います。ですから、天気がひどくならないうちに道の駅とかパーキングエリア、サービスエリア、先程の永田さんのようにコンビニなどで休憩をとるということ、すなわち安全なところで車を停めてもらうことが必要だと思います。

でも、どうしても車を停めるところがなければ、できるだけ後ろから見通しがきくようなところで止めましょう。見通しが利くと走りたくなくなってしまうでしょうが、そこで止めたほうが本当は良いと思います。

(木下) 永田さん、実際にはどうでしたか？

(永田) 実際にあまり長い時間ではないけど立ち往生しました。そのときに困ったことは、まず情報があまりないことです。一生懸命ラジオをまわしたりしましたが、30分に1回くらいの情報を必死に拾うという感じで、先程松澤さんから説明があったように、携帯電話なら皆さん持っているので、繋がる場所で携帯電話のインターネット情報を調べれば良かったと今は思います。



あともうひとつ困ったのは、「私孤立しました！」というのを誰に連絡すればいいのかということです。

(木下) 大塚さん、実際には救急にはどんな要請が多かったのでしょうか？

(大塚) 救急消防活動の中でもお話したとおり、吹雪に起因した救助を要請した人が屋外にいるということ、除雪作業が終わっていないということ、それと車内で急病ということです。

このほかには、渋滞や食料に関することです。小さなお子さんがいらっしゃる方も多くて、不安があるのでどうしたらいいのかとか、狭心症や心筋梗塞といった持病ある方や薬を常に飲んでいる方はものすごく不安だと、そういうような問い合わせや相談がありました。

長時間、10何時間も狭い空間に4～5人いる車両では、救急車は要らないけども、めまいがする、息苦しい、吐き気がするという相談が多かったんですが、排気ガスでエンジンを止

めるということも必要だと思います。

たくさん乗っていて長時間乗っていると、そういう症状が出る方は軽い酸欠になることが考えられますので、吹雪で大変ですけども、ある程度時間おいて窓をあけて、換気をすることも長時間では考えなくてはならないと思います。

(木下) 澤田さん、こうした場合、誰に連絡をすればよいのでしょうか。

(澤田) 開発局では道路上で立ち往生した場合に連絡する電話受付があります。道路緊急ダイヤルといって、**#9910** にかける**24 時間**受付で対応してくれます。これは国道だけではなく高速道路、道々でも対応してくれます。ここを通じて、道路管理者に「車が立ち往生している」とか「困っている」という連絡が行きます。この道路緊急ダイヤルでは、電話した運転者に電話が入るというシステムになっていますので利用してください。



実際、長沼の吹雪災害では**200 件**くらい問い合わせがありました。

位置の特定は国道であれば、キロポストも吹雪の中では確認は無理な場合があります。カーナビをお持ちの方は拡大して表示されている場所などの情報をくれると助かります。

今回の吹雪では特に乗用車を探すのは大変でした。例えば、私の車の何台前に大きい車がいるという情報だけでも、探すのは早いかなと思います。

(木下) 最悪、車の中で吹雪をやり過ごす、あるいは車を放棄して近くに避難するといったことも考えなくてはならないと思うのですが、その場合の注意点ありますか？

(澤田) 先程松澤さんもおっしゃっていましたが、まず無理していかないことです。

ちょっとでも良いところがあればそこで停まった方がいいですし、例えばコンビニとかは最適だと思います。トイレあり、食料ありで、もうひとつ燃料あれば1番いいですけど。ガソリンスタンドなんかも頼めば停まらせてもらえるんじゃないですかね。

そういったところに避難して、天候回復を待つというのが1番賢い方法かなと思います。

それから、やむなく車両放置する場合はぜひキーをつけたまま、連絡先のメモを残してください。道路管理者が責任を持って預からせていただくのでそうして欲しいと思います。

(木下) また、こうした吹雪の中で立ち往生してしまった場合の救急への要請や利用について、大塚さんのご経験から何か注意点はないでしょうか。

(大塚) 今、澤田さんがお話されたことと重複しますが、携帯電話で通報される方は自分が今どこにいるかわからない方が多いのが実情です。まず所在と目標、それを確かめていただく、吹雪の中では目標物はどうなのかということも難しいということもありますが、基本的には救急



要請する場合は所在や目標、カーナビの情報でも、例えば前の車両に大きなトラックがある、バスがある、またご自分の車の特徴、車種ナンバーなども有効です。携帯電話で通報した後、さらに確実に場所を確定させていただくためには、近くに民家があれば行って電話をして頂くと、そうすると所在地がわかりますので、道路、自分の位置が不明でも、場所特定の時間短縮に繋がります。

それと 119 番するときに、直接関係ないかもしれませんが、通報者のお名前・電話番号を聞くのですが、自分の携帯番号がわからない場合がありますので、できるだけ自分の携帯番号をすぐに伝えられるようにしてもらえるとありがたいです。

また、通報した後に安心して家族やどこかに電話してしまう方がいます。場所が特定できない場合には、こちらから再度電話をかけながら場所を特定して救助に向かう場合もありますので、通報後の 10～15 分間は電話をかけないようにしてください。電話を他にかかけられていると通報した方に繋がらなくなってしまいます。また、何人かである場合は、一人の携帯電話はあけておくように、気をつけていただきたいと思います。

(木下) ここで会場から、吹雪の中での運転や、吹雪で身動きできなくなったときについて何か質問はありませんか？



閉会

◆ 閉会挨拶

竹内政夫（日本雪氷学会）

